

イデックスオイルレポート ~For a week~

【概況】

●5日、パレスチナ自治区ガザでイスラエルと交戦するイスラム組織ハマスは3日、停戦案を巡る新たな提案を仲介役に伝達したと発表。イスラエル側は「内容を精査する」と表明した。米政府高官は4日、オンラインの記者会見で「突破口が開かれた」と述べ、停滞していた交渉が再び軌道に乗りそうだとの見方を示した。これを受けて、停戦交渉の行方に期待が広がり、これまで高まっていた地政学的リスクへの警戒感が後退し原油が売られ相場は83.16ドルへ反落しました。

●8日、イスラム組織ハマスの幹部は7日、これまで大前提としてきたイスラエルとの「完全な停戦」がなくても、同国と人質解放で交渉する用意があるとの意向を表明。これを受け、米国などを仲介役とした間接交渉が進展するとの期待が高まり、このところ強まっていた一段の情勢の緊迫化や紛争拡大に伴う供給不安が後退し相場は82.33ドルへ続落しました。

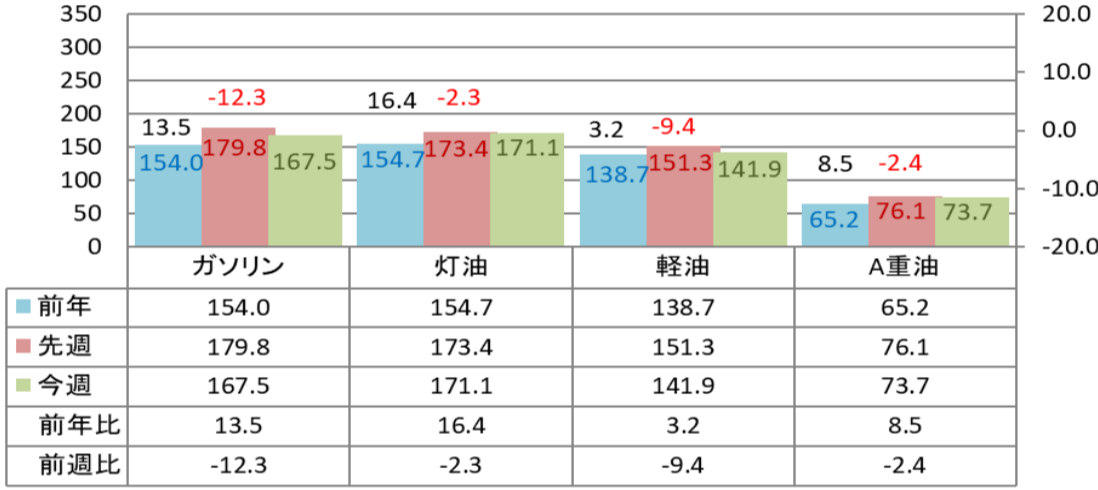
●9日、大型ハリケーン「ベリル」は8日朝、米南部テキサス州に上陸し、夕方には勢力を弱めて熱帯低気圧となった。石油精製施設が集積するメキシコ湾沿岸では、製油所の稼働縮小や人員退避などの措置が取られたが、現時点で被害は想定ほど拡大してないとみられている。ロイター通信によると、主要石油積出港については、コーパスクリスティ、フリーポートの2港が8日に一部の操業を再開。ヒューストン港はターミナルを引き続き閉鎖するが、9日午後にも一部船舶の受け入れを再開する見通しという。米国の石油生産の4割を占めるテキサス州の供給混乱を巡る警戒感が後退したため、原油売りが先行し相場は81.41ドルへ続落しました。

●10日、米エネルギー情報局（EIA）が発表した週間在庫統計によると、原油在庫は前週比340万バレル減と、市場予想（ロイター通信調べ）の130万バレル減を上回る取り崩し幅となった。ガソリン在庫200万バレル減（同予想60万バレル減）となったことで供給がだぶつくと警戒感が後退し買いが先行し相場は82.1ドルへ反発しました。

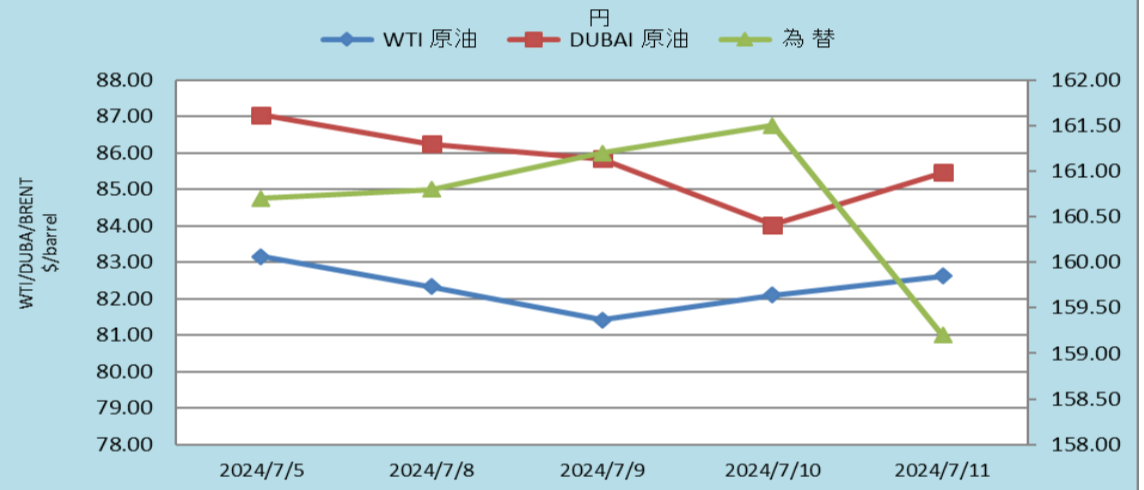
●11日、米労働省が朝方発表した6月の消費者物価指数（CPI）は前月比、前年同月比ともに5月から伸びが鈍化し、市場予想を下回った。また、6日までの週の新規失業保険申請件数もほぼ変わらずとの事前予想に反して減少。これを受け、米連邦準備制度理事会（FRB）が9月にも利下げに動くとの観測が一段と拡大、政策金利が引き下げられれば経済活動が活発化し、エネルギー需要が増大するとの思惑が強まり相場は82.62ドルへ続伸しました。

7月12日 16:00現在 WTI原油 83.17ドル 為替 1ドル 160.11円

国内石油製品在庫 7月6日時点



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



次回元売変動予測

	7/18~	元売変動予測
ガソリン	→	-1.2~-1.7
灯油	→	-1.2~-1.7
軽油	→	-1.2~-1.7
A重油	→	-1.2~-1.7
LSA	→	-1.2~-1.7

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+2.0円」、補助金は、「-33.4円・60%」、都合「-3.0円」の改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの8日時点の小売価格平均は176.3円となっております。

《7月18日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「-1.5円~-2.0円」、激変緩和補助金は「-33.1円・60%」の見込みで、都合「-1.2円~-1.7円」の改定予測となっております。

※原油コスト「-1.5円~-2.0円」
 ※激変緩和補助金「-33.1円」前週比+0.3円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 < 廃アルミで水素火力発電 ホテル三日月 >

ホテル三日月（木更津市）は、装置製造販売業「アルハイテック」（富山県高岡市）と協力し、空き缶などの廃アルミニウムを用いた水素火力発電事業に乗り出す。発電には館内や木更津市内などから出された空き缶などを利用し、2024年4月の本格稼働を目指す。（丸山雅樹）

アルハイテックは、廃アルミから水素と水酸化アルミを製造する反応液を開発している。飲料パックの内側や錠剤のシートなどに貼られたアルミを分離する装置も製造しており、こうした技術に着目したホテル三日月が協力を打診。両社は戦略的パートナーシップ契約を結び、水素を使った火力発電の事業化に乗り出した。

計画では、木更津市北浜町の「龍宮城スパホテル三日月」の敷地内に、アルハイテックが開発した水素製造装置と、ドイツ製の水素火力発電設備を設置。廃アルミから作られた水素を使って発電を行う。

廃アルミは木更津市で回収された資源ごみや、リサイクル業者から調達するほか、同ホテルの「富士見亭」の客室フロア各階にアルミ缶専用のボックスを置いて回収する。調達量は年500~600トンを見込んでおり、廃アルミから作られた水素を使って発電することで、同ホテルで1年間に消費する電力の約45%をカバーできるという。

アルハイテックの水木伸明社長は「再生された水酸化アルミは、人工大理石などの原料として販売できる。飲料パックからアルミを剥離はくりした後の紙パルプも、トイレトペーパーなどに再利用できる」と説明した。

【出典】読売新聞オンライン <https://www.yomiuri.co.jp/local/chiba/news/20240704-OYTNT50217/>